

## 国土交通大臣賞（優秀賞）

### 水は命 — 松山大湧水に学ぶ —

「こらっ、水出しっぱなしにしたらダメやろ！無駄にして、もったいない！」私は小さい頃、よく水を出しっ放しにしてしまい、母に見つかっては怒られた。私も、もちろんいけないことだと知ってはいたが、ついうっかりしてしまう。そもそも、なぜそんなに水を大切にしないといけないのか、あまり分かっていなかったのだ。

私が幼い頃住んでいた西条市は「水の都」と呼ばれ、おいしくて透き通った水が、あちこちに湧き出ていた。水道代も無料で、水をいくら使ってもいいような気分になっていたのだと思う。

私が怒られて不満げにしていたからであろう。母がゆっくりと諭すように語り始めた。「水なんて蛇口をひねればいつでも出てくると思っているんでしょ？あなたが生まれるずっとぶん前のことになるけど、松山市では大湧水が起きて、水が使えなくなることがあるの。お母さんはそれを体験したから、水の大変さや大切さがよく分かるの。」大湧水？その言葉を耳にした私は、その言葉の意味を理解することはできなかったが、水は無限にあるわけではなく、使い過ぎてはいけないのだ、ということには分かった。そう言いながら私を見る母の真剣なまなざしに、私は、ただうなずくしかなかった。

あれから何年経ったころだっただろうか。私は、母の実家のある松山に引っ越して来た。松山に来て、すぐに感じたのが、松山市の節水意識の高さだった。手洗い場やトイレなどいたる所に「水を大切に」などをよびかけるポスターが貼られている。また、各家庭には「節水」と書かれたチラシが配られる。友達の家には、湧水が起きた時のためのバケツも用意されているという。なぜ、松山市はこんなに節水意識が高いのだろうか？と考えたとき、ふと、以前母に言われたことを思い出した。大湧水とはいったいどんなものだったのだろうか。真剣な眼差しで母の姿を思い出し、聞いてみなければとの思いに駆られ、母に尋ねてみることにし

### 愛媛県 松山市立椿中学校 三年 今村 千春

た。すると、「この量の水で、食器洗いをしてみて。」答える代わりに母が差し出したものは、洗面器にたった一杯の水。「食器はたくさんあるから、そんな量の水だけでは絶対に足りない、無理だ。」と思っていると、「お母さんはできるよ。」と私の心を見透かしたように母が言う。

そこで私は、できるだけ効率のいい方法を考えてから実践してみた。洗う前に油污れをあらかじめ取っておき、洗剤を使い過ぎず、すすぐ水は少しずつ大切に使う。この方法を守って実践してみると、洗面器一杯の水では少し足りなかったが、普段の食器洗いの水の使用量を大幅に減らすことに成功した。

母は私の奮闘ぶりを見て、にっこり笑い、大湧水のとときの思い出を話し始めてくれた。ひどいときには、水道の蛇口から水が出る時間は四時間だけ。ポリバケツに水を溜め、その水を一日大切に使うのだ。当然、洗濯や入浴は毎日できない。我慢して我慢して、水を大切に使うのだ。たそうだ。だから、松山の人は、水のありがたさを知っているのだ。

「水がないと人は生きていけないでしょう？それなのに、人は水が無駄にしても平気でいるなんておかしいと思わない？」私は母の話にとても驚いた。水が使えるのは、当たり前のことではなく、とてもありがたいことなのだ。だから、私は、母に言われて食器洗いの方法を見直したように、身の回りの些細なことから水資源を守る取り組みをしていきたいと思うようになった。入浴中のシャワーの時間の短縮、どんなときでも水を出しっ放しにしない、私にもできることはたくさんある。

水は命。水を守ることは、命を守ること。松山の大湧水から得た教訓を忘れず、水が使えることに感謝して生活したい。そして、豊かな水資源を守り続けていきたいと思う。